KU EXPRESS
関西大学 プレスリリース

KANSAI UNIVERSITY

防災・減災、南海トラフ地震、高齢者支援　2026 年 11 月 11 日／No.40

■ 津波が最短 1 分で到達、高齢化が進む和歌山県串本町で ■
「避難を諦めない」津波防災へ、電動小型車両を試乗
～ 関大生と地元高校生が協働、11 月 20 日に防災体験実習～

関西大学社会安全学部の近藤誠司教授の研究室は、和歌山県立串本古座高等学校と連携し、南海トラフ地震による津波に備えた新たな避難手段の研究に取り組んでいます。11 月 20 日（金）には、同校で開催される「防災体験実習（防災フェア）」で、地域の高齢者による電動小型車両の試乗などを通じ、「避難を諦めない」ための新たな可能性を探ります。

本件のポイント
- **津波が最短約 1 分で到達する串本町で、高齢者の「避難放棄」という課題に挑む**
- **関大生と地元高校生が協働し、防災放送などを通じて地域住民の意識変容を促す**
- **高齢者が電動小型車両を試乗。日常の移動から津波避難への活用可能性を探る**



■ 津波が最短 1 分で到達、高齢者の「避難放棄」が課題に

本州最南端に位置する和歌山県串本町は、南海トラフ地震の発生時、場所によってはわずか 1 分程度で津波が到達すると想定されています。高齢化が進む同町では、迅速な避難が難しい高齢者が、過酷な被害想定を前に避難そのものを諦めてしまう「避難放棄」が課題となっています。近藤教授は、こうした被害想定が人々の防災意識に及ぼす負の影響を「情報の逆機能」と捉え、従来の避難方法にとらわれず、「避難を諦めない」ための新たな選択肢を探る研究を進めています。

■ 関大生と地元高校生が協働、地域の防災意識を変える挑戦

この課題に向き合うため、近藤研究室と串本古座高校の生徒たちが連携し、地域の防災力向上に向けた活動を展開しています。同校では 2026 年 1 月に防災に取り組むチームが発足し、6 月から校内放送、9 月からは町の防災行政無線を通じて、防災メッセージを発信しています。一方、近藤研究室では、津波避難への活用を見据え、学生らが千葉県での特定小型車両の選定や、新潟県での介助運搬車の試乗などを実施。高校生と大学生がそれぞれの役割を担いながら、地域の防災意識と行動の変化を促す「アクティブ津波防災」に取り組んでいます。

■ 電動小型車両を津波避難に活用、高齢者が新たな移動手段を体験

11 月 20 日（金）、串本古座高校では、学校行事として避難訓練と「防災体験実習（防災フェア）」を実施します。注目されるのは、運転免許不要の特定小型車両を津波避難に活用するという、従来の発想にとらわれない試みです。当日は地域の高齢者らが実際に試乗し、操作のしやすさや日常利用への意向などを確かめます。また、自動膨張式救命いかだの実演や介助運搬車の搬送体験なども実施します。特定小型車両は串本町役場と同校に各 2 台、計 4 台を寄贈する予定です。今回の寄贈は、近藤研究室の働きかけをきっかけに、米国の NPO 団体「Live Warning」による資金提供と、エレモーズ社の協力によって実現しました。普段の買い物などに活用しながら乗り慣れてもらい、将来的な津波避難への応用を検討します。

近藤教授は、徒歩か自動車かという従来の避難手段の二者択一を超え、高齢者が無理なく利用できる新たな選択肢の実現を目指しています。



名称	防災体験実習（防災フェア）
日時	2026 年 11 月 20 日（金）13：00～15：00（生徒への個別取材は別途 15:30 以降に対応可能）
会場	和歌山県立串本古座高等学校（和歌山県東牟婁郡串本町）
実施形態	同校の学校行事（避難訓練に続いて実施）　※雨天の場合、体育館等で実施
参加者	同校生徒、保護者、地域住民、関西大学近藤研究室、関係機関・団体など
主な内容	・地域の高齢者らも参加する特定小型車両（電動小型車両）の試乗体験 ・体育館での自動膨張式救命いかだの実演・体験 ・災害時の移動支援を想定した介助運搬車による搬送体験 ・VR ゴーグルを活用した災害の疑似体験・防災学習　ほか

本件に関するお問い合わせ先
関西大学　総合企画室 広報課　　担当：小林、伊地知
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35　Tel.06-6368-0007 Fax.06-6368-126
www.kansai-u.ac.jp